

第34回 兵庫県生物学会総会報告

期 日 1980年 5月24日, 25日

第 1日

会 場 洲本市柳学園高等学校

司 会 岡田清隆先生

○会長挨拶 会長 室井 紳先生

本学会は昭和4年、兵庫県博物学会発足以来50年以上連続している。「播磨の生物」は「のじぎく文庫」から発刊の運びになった。淡路へ来ると淡路の主といわれた松沢先生の研究授業の光景が思い出される。生物学はアマもプロもなく面白く勉強ができる。

本日は生物学会のために会場を引き受けていただいた本学園理事長の柳先生をはじめ淡路支部のかたがたに大変お世話になり厚く御礼申し上げたい。

○来賓祝辞 柳学園理事長 柳 八郎先生

本学園で第34回総会を開いていただきて光栄に存じます。松沢先生は3年ほど本校に講師として勤めていただきました。三熊山の中腹に松沢先生の記念碑があります。

マツクイムシにより松が枯れていくのを見てさみしく思っています。経済成長に気をとられて自然保護が手はずになっているように感じられます。今に淡路の松が全部無くなるのではないかという気がいたします。枯れた松は早急に伐採して焼却すべきだと思います。予算をもっと導入してマツクイムシ対策を実施すべきであると思っております。どうか意義ある研究会にさせていただきたいと思えます。

○森・三木・紅谷生物奨励金授与

榎賀正夫氏 論鶴羽山植物相の研究

堀田 久氏 淡路の甲虫・蝶類の研究

岡田清隆氏 淡路の生物の研究

登日邦明氏 淡路の昆虫(蛾類)の研究

議 事 議長 岡田清隆氏

1. 昭和54年度事業報告 当津 隆理事長

(1) 理事会 4・28(土) 県夢野台高校

(2) 会計監査 5・19(土) 県明石高校

(3) 第33回総会 5・25・26(金・土)
温泉町民センター

(4) 夏期研修会 8・1~3(水~金)
県香住高校

(5) 第6回公開講座 10・20(土)
神戸市教育研究所

(6) 第100回記念現代生物学ゼミナール(12・1土)
神戸市教育研究所

(7) 常任理事会 3・8(土) 柳学園高校

(8) 高校教育研究会生物部会, 理科新学習指導要領研究委員会 安房 明

(9) 刊行物

(7) 兵庫生物 Vol. 8, No. 1

(4) 高校生物Iハンドブック 第18版

(5) 天然記念物細見 神戸新聞出版センター

2. 昭和54年度会計報告(P.122参照) 平畑政幸

〃 監査報告 富川哲夫

3. 昭和55年度事業業務計画

(1) 理事会 4・26(土) 親鸞クラブ

(2) 会計監査 5・17(土) 県明石高校

(3) 第34回総会 5・24・25(土・日) 柳学園高校

(4) 夏期研修会 8・11・12(月・火) 沼島中学校

(5) 第2次台湾研修旅行 8・1~9(金~土)

希望者少数のため中止

(6) 理事会・高校生物Iハンドブック編集会議

8月下旬

(7) 第7回公開講座(企画部)

岡村はた先生「ふ入り植物の話」

(8) 科学施設見学会(研修部)

(9) 会誌「兵庫生物」(編集部)

旅行記, 見学・観察記録, グループ研究・個人研究記録, 支部報告等, 学術的なものから新しい知見や面白い読みものとなるような原稿をどしどし送って下さい。

(10) 次期(第35回)総会開催予定地 丹有支部

(11) 常任理事会 56・3・7(土) 柏原高校

(12) 会費値上(案)

年間会費1000円から1500円に値上げに決定

昭和56年度から実施(承認)

講 演

1. 淡路島の水仙郷について 榎賀正夫先生

黒岩の水仙郷は灘の水仙郷として古くから知られていた。立川の水仙郷は昭和29年より開発されたものである。これらの地区の地質は白亜紀にできた論鶴羽山脈の一部で泉砂岩により成り立っている。淡路の水仙の由来は中国大陸から渡来したものと考えられている。不稔性であるため、球根で繁殖させる。

2. 淡路島の鳥 山崎千里先生

水辺の鳥

チドリ: 阪神間(浜甲子園)では100羽以上見られるが淡路島では100羽見ることはむずかしい。

ウ: 12月~3月中旬沼島で見られる。

バン: 朽った葉を食う。毎日1個ずつ産卵する。

その他、タンギ、ハマシギ、トウネン、クサシギ、
イソシギ、イカルチドリ、タカブシギ、ムナグロ、タ
イセン、タゲリ、シロチドリ、タイサギ、コサギ、ク
ロチドリ、カイツブリ

山の鳥

メジロ：梅の花蜜を吸う。ウグイス、ヒヨドリ、モ
ズ、ヤマドリ、フクロウ：ノネズミを捕食する。

研究発表

1. 横山了爾氏 兵庫県太子町矢田辺で採集されたツクシタケ
2. 石上 晃氏 Hardy-Weinberg 法則の拡張
3. 岡田清隆氏 薬剤空散による影響データ
4. 南光重毅氏 淡路にある教材になる面白い植物
タニウツギ、タジマタムラソウ、ハナイカダ、セン
リョウ科植物、フタリシズカ、ヒトリシズカ、マツ
バラ、アオウキクサ、サンショウモ、タヌキモ等
をスライドで紹介

第2日

5月25日(日)自然観察指導研修会午前9時、あいにく小雨の降る中、恒例の野外研修会が実施された。本年は三熊山北斜面のハイキングコースを踏査し、10年後の変貌を観察した。総会第1日目5月24日(土)宿舎となったホテル金栄で、夜遅くまで非常に熱心に南光先生のすばらしい植物の一生のスライドを観賞した。全員がそのすばらしいカメラワークにひきつけられ溜息の連続であった。この前日のつかれも苦にせず、きゅうきょ購入した傘をさし 室井綽先生の熱心かつウィットに富んだ解説を聞きながらハイキングコースの北斜面沿いに三熊山登山をした。

さて、国立公園三熊山は大浜公園のすぐ南に位置する標高152mの低山である。この山の北斜面はうっそうと樹木がおい茂り、淡路島の中でも自然の植生が良く保存されている点で生物界では良く知られているところである。特に、植物の種類が多いことと南方系の珍しい植物が多く見られ大樹が多いことから 植物の宝庫と言われる学術上も極めて貴重な地の1つと注目されている。

故松澤重太郎先生は、三熊山の植物相について深く研究され177種の本木植物、17種の新種を含む233種の菌類などを多数発見された。これらの記録をガイドブックにし、現在これらの植物が身近なハイキングコース沿いに自生しているのを確認しながら登っていった。途中で立つ故松澤重太郎先生の碑の建立の言われを山西先生より説明を受け、当時の功績を偲んだ。

また、樹木にとり付けた名札の表示が誤っているもの、植物の和名はひらがなで示さなければいけない等の貴重な指摘を受けながら頂上に向った。途中で驚くほど多くの松くい虫にやられた痛々しい姿の赤松を見た生物

学会員の多くは、なんとかならないものかと心を暗くした。被害木を切り倒しただけの処理現場を見た会員のある者は、この状態で放置をするからこの被害木の中で松くい虫を媒介するマツノマダラカミキリを繁殖させているようなものである。これを防止するには伐倒焼却以外に適切かつ確実な駆除方法はないと厳しいクレームを付けていた。約30分程で頂上の天主閣に到達し、洲本市内を一望する中であらためてさきほどの松くい虫被害を受け赤茶けた山なみを見て淡路島の松くい虫被害の激しさに全員が驚いた。頂上で約20分ばかり休息し、西の丸の測候所を通りいこいの広場から南淡路、由良、友が島方面の遠望を楽しみながら下山後、大浜公園で解散した。

(岡田清隆)

第35回 生物学会総会ご案内

と き 昭和56年5月

と ころ 丹有支部

上記の予定になっておりますので、研究発表をご希望の方は、あらかじめご準備おきください。

生物教材研究会報告

下記の通り、阪神、西宮、芦屋地区で4回会合を行いました。尚問合せは、県立西宮今津高校萩原、県立西宮高校南雲まで。

第1回 昭和55年5月27日(火) 県立芦屋高校

参加高校 7校, 14名

○情報交換と運営の方向

第2回 昭和55年7月8日(火) 県立芦屋南高校

参加高校 10校, 22名

○微生物の観察法……檜垣守宏(県立芦屋南高校)

○身近な雑草……酒井篤誠(県立西宮南高校)

第3回 昭和55年10月24日(金) 県立西宮今津高校

参加高校 9校, 18名

○身近かな植物について……内波秀一(県立西宮今津高校)

○学校敷地内外の植物生態観察及び生態写真の撮り方
……内波秀一・酒井篤誠

第4回 昭和56年2月5日(木) 県立鳴尾高校

参加高校 12校, 19名

○生物のプログラム学習とパンフレット

……田中貞之(県立鳴尾)

○生物教材の栽培と飼育の現状(紹介と交流)

……藤井 清(県立鳴尾)

生物教材ニュースとして要約、情報を第3号まで発行しました。他地区との交換交流を希望しています。(南雲)

室井 綽 (姫路学院女子短大)	当津 隆 (夢野台高)	東 敏 男 (市神港高)
平畑 政 幸 (西宮今津高)	岡村 は た (兵庫高)	吉原 正 剛 (青雲高)
山田 隆 (明石高)	山西 元 (柳学園高)	堀田 久 (中川原小)
金澤 龍 (赤穂高)	近藤 昭一郎 (兵庫高)	富川 哲 夫 (北須磨高)
寺沢 迢 (灘高)	小柴 敬 三 (播磨農業高)	滝口 邦 宏 (赤穂高)
杉田 靖 興 (赤穂高)	南光 重 毅 (一宮町多賀小)	安房 明 (東灘高)
高田 俊 (葺合高)	真野 斉 三 (明石北高)	石上 晃
今津 達 夫 (姫路東高)	渡辺 猛 史 (加古川北高)	矢尾田 勝 (洲本高)
岡田 清 隆 (柳学園高)	登日 邦 明 (柳学園高)	阿蘇 達 郎 (加古川西高)
佐野 駿 介 (加古川西高)	槌 賀 正 夫	村木 珪 三 (生野高)
永井 壮一郎 (柏原高)	小稲 茂 夫 (篠山鳳鳴高)	市村 豊 (神崎高)
猪井 隆 (松陽高)	田村 武 男 (播磨農業高)	古田 昌 (福崎高)
横山 了 爾 (龍野高)	後藤 統 一 (夢野台高)	浅原 一 彦 (尼崎小田高)
建 武 (芦屋高)	渋野 竜 二 (教育植物園)	古河崎 正 昭 (三木東高)
中尾 義 則 (三木高)	東 克 彦 (神戸商業高)	佐谷 稔 (神戸商業高)
上根 大 輔 (青雲高)	丹羽 啓 裕 (洲本高)	田先 崇 志 (香寺高)
小林 利 雄 (香寺高)	柳 哲 雄 (柳学園高)	大柳 実喜子 (柳学園高)

兵庫県生物学会第6回公開講座報告

と き 54年10月20日(土)午後2時～4時
 ところ 神戸市立教育研究所
 お話とスライド 「ロッキー山脈紀行」
 講 師 神戸市立教育植物園

園 長 林 中元先生

つねづね、木を植えるには土地にきけ、花や実の美は季節に従えと話して居られた林先生が、53年8月ロッキー山脈の研修旅行に行かれたとうかがい、「海外植物事情」の楽しいレポートがいただけると、公開講座海外シリーズの第1弾として企画しました。

54年5月、先生のご承諾を得て、10月の講座の日程を組んだ矢先に、自他共に60代の青年を認めていた先生が突然入院され、計画の変更を申しあげたのですが、とうとう病室から直接会場へおいでいただくという事態になりまして、本当に先生には大変ご無理をお願いいたしました。

当日は、植物を通じて先生とお知り合いの方々、それに多勢の林ファンの皆さんの出席で、大変盛大な講演会

になりました。

ロスアンジェルスからバンクーバを経てカナダ入り、バンクーバでは、スタンレー公園、クインエリザベス公園、そして、バンクーバ島ビクトリアでのブッチャード公園と都市部の人達の自然を楽しむ生活をスライドで説明いただき、ついで、ジャスパー、バンフ国立公園の雄大な景観を250枚ものスライドでつぎつぎと案内していただきました。

北米大陸の太平洋側に近く、カナダからアメリカへ南北4,500kmにわたるロッキー山脈は、海岸から山脈までの地帯は雨量が多いのにくらべ、カナディアンロッキーの東側は乾燥地帯で、水系に沿い何百kmと続く森林の植生は意外と単純で、トウヒ、モミの類が多く見られたようでした。

先生は、長期の入院療養のところを無理を押し出席していただいたため、途中大変お疲れの様子でしたが、公開講座を無事終ることができました。先生本当にありがとうございました。(渋野 竜二)